



横須賀市自然・人文博物館 メールマガジン 2019年2月27日号



企画展示「初公開！仏国メラング家で見つかった横須賀製鉄所資料」開催中！

◆学芸員自然と歴史のたより◆

茶色の土器と灰色の土器、何が違う？

古墳時代の土器には、土師器(はじき)と呼ばれる茶色の土器と、須恵器(すえき)と呼ばれる灰色の土器があります。

土師器は弥生時代以来の技術をもとに、地面に掘った浅い竪穴(たてあな)などを使って700～800℃程度の温度で焼いた野(の)焼きの土器です。

粘土が酸化するために、鉄錆(てつさび)と同じように赤茶色となるのです。

これに対し須恵器は炎の特性を利用し、斜面に掘ったトンネル状の穴すなわち窯(かま)の中で焼かれた土器です。

焼成温度は1200～1300℃と高温で、約1600年前に朝鮮半島から伝えられた当時最先端の技術で、窖窯焼成(あながましょうせい)と呼ばれています。

ただし、高温でも焼いただけでは野焼きと同じく茶色のままですが、最後に焚き口を密閉することで窯体(ようたい)内は酸欠状態となり、すでに酸化していた土器から逆に酸素を奪って薪(まき)が燃えるため土器が還元され、灰色になるとされています。

理屈のうえではこうですが、実際にやってみるとなかなかうまく還元されず、灰色にはならないようです。

現代では理科の授業で習う「酸化と還元」ですが、古代の人々は理屈ではなく、たゆまぬ努力と豊かな経験の積み重ねによってこの技術を体得していったと思われます。

低温で焼かれる土師器は割れやすく保水力も良好ではありません。

これに対し、金や銅までもが溶けてしまうほどの高温で焼かれる須恵器は硬く丈夫で、保水力にも優れています。

単純にみれば劣っている土師器が駆逐され、優れた須恵器だけが残るはずですが。

しかし、その後も土師器はさかんにつくられ続けています。

なぜでしょうか？

実は一長一短、それぞれの土器がもつ特性が背景にあったようです。

須恵器は焼きものとしては優れていますが、窯を築く高度な技術ばかりでなく、高温焼成のためには大量の燃料が必要となるのです。

一方、土師器は低温のため燃料も少なく、比較的簡単に焼成できるのです。

したがって大量生産、大量消費も可能となります。

また、土師器甕(かめ)は煮沸用の土器として使われていますが、須恵器は直接火にかけると割れるため煮沸には不向きなのです。

このようにみてくると、土師器は大量消費用の普及品および煮沸用具、須恵器は高級品および保存容器としてそれぞれの特性を活かしながら相互補完的に共存していたのです。

(考古学担当：稲村)

URL: <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/news/26698>

#### ◆展示情報◆

企画展示「初公開！仏国メラング家で見つかった横須賀製鉄所資料」

2019年3月24日（日）まで

フランスに伝わった新規収蔵資料を一堂に展示！

日仏交流160周年目にあたる2018年、博物館では、フランスに残されていた横須賀製鉄所の貴重な資料を新たに収蔵しました。

資料は、横須賀製鉄所のフランス人製図工長メラングの子孫に伝来したものです。

メラングは、日本初の洋式灯台である「観音埼灯台」の製図を担当した重要人物で、部下の製図工バスティアンは、「世界遺産富岡製糸場」の設計に関わりました。

幕末・明治の横須賀の写真や日記、図面など貴重なコレクションの数々をご覧ください。

おもなみどころ

☆幕末・明治の横須賀の写真！ 写真資料一式をパネル展示します。

☆むかしの地図！ 東京湾沿岸部の古地図に横須賀の地名がたくさん登場します。

☆文献資料群！ メラングの横須賀製鉄所の名刺や文書、日記など。

【関連行事】

展示解説 2019年3月9日(土) いずれも13:00~14:00 本館特別展示室 参加自由  
フランスから収集した各資料を学芸員とともに鑑賞します。

URL: <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/exinfo/25325>

---

トピックス展示「さよなら平成展」

2019年5月6日(月)まで

---

残りわずかとなった「平成」を振り返るため、貴重な博物館資料だけでなく、新聞や書籍、コンピュータや玩具などの身近な商品を10点ほど展示します。

URL: <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/exinfo/26397>

---

トピックス展示「新着標本2019」

2019年4月14日(日)まで(期間延長しました!)

---

博物館では毎年、採集や寄贈によって多数の資料を受け入れています。

「新着標本2019」では、今年度に新しく受け入れた標本や、新しく分類・整理を終えた標本など、さまざまな分野の未公開の標本のうち、よりすぐりの一部について紹介します。

URL: <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/exinfo/26399>

◆イベント情報 ◆

---

博物館講演「よこすか歴史物語2 横須賀の昔話が意味するもの」

2019年3月17日(日)

---

申込不要。横須賀の歴史や歴史学について、博物館の学芸員が講演します。

URL: <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/event/25351>

---

自然館ミュージアムトーク（3月）

2019年3月31日（日）

---

申込不要。博物館の学芸員が自然館の展示を解説します。

URL: <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/event/25346>

---

天神島ガイドツアー（3月）

2019年3月24日（日）

---

申込不要。天神島臨海自然教育園内の動植物や景観などの見どころを紹介します。

URL: <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/event/25403>

---

自然観察会「海藻入門」

2019年4月21日（日）

---

事前申込制。三浦半島沿岸に育成する多種多様な海藻を観察し、海藻押し葉を作成します。

URL: <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/event/26709>

---

発行：横須賀市自然・人文博物館

---

本メールは送信専用アドレスから配信されています。

このまま返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

このメールの無断転載を禁止します。

登録内容の編集・解除は下記より行ってください。

<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/mailmagazine/entry>